

Macの良さとは何か？

“ 創造性を止めるな、
機能制限を解除せよ！ ”

選ばれるのには訳がある。Macが持つ本質的な魅力

企業のMac導入の現場を見ていると、導入目的から利用対象の社員、セキュリティ対策から運用管理まで、その企業の考え方や文化が反映されていて面白いものだ。企業規模に関わらず、Macを導入しようと試みている企業が抱えている課題は一緒で、いかにWindows PCと同じように利用できるか、管理ができるか、といったことである。

現在、企業内にあるPCの主たるOSであるWindows 7のサポートが2020年1月14日に終了することを受けて、各企業はWindows 10へアップデート対応を迫られている。このサポート終了をきっかけに、このままWindowsを使い続けるのか、その他のOSも検討すべきか、という議論の中で、Macの導入検討を始めている企業が増えている。また、社員の働き方や多様性に対応するために、利用するIT機器を選択できるようにするEmployee Choiceプログラムを社内に浸透させようとチャレンジしている企業も出始めている。さらに海外での成功事例も聞こえてきており、日本国内でも話題に事欠かない。

デザイン制作などのクリエイティブ作業やiOS向けのアプリケーション開発など、目的が明確になっている場合は、導入目的を迷うことはないだろう。しかし、Microsoft Officeやメール、インターネット、クラウドを前提とした業務システムの利用など、社員のほとんどを対象としてMacが利用できる環境を考えようとすると、Macを利用する社員のペルソナ設定から、使用するアプリケーション、利用シーンを考慮したセキュリティ設定など、検討すべきことが一気に増え、担当者の頭を悩ます課題が溢れてくる。

個人的には、Macを仕事で使うようになって15年以上経つが、今ではMacを使わないで仕事をするのが想像できないくらいである。顧客に伝えたいプレゼンテーションを作成する際に利用する「Keynote」や、アイデアや打ち合わせ内容を簡単に共有できる「メモ」と「AirDrop」、離れた場所にいるメンバーとのコミュニケーションをスムーズに行える「FaceTime」など、Macに標準で備わっているOS機能やアプリケーションが私の日々の仕事のストレスを減らしてくれる。また、App Storeには仕事効率化のためのアプリが揃っており、個人のタスク管理やiOSデバイスと連携できるアプリが豊富に揃っていることも魅力の一つだ。日々使うデバイス、アプリだからこそ、使い方に迷うことなく、直感的に、思考を止めることなく使うことができることが大事だ。Macはあくまでビジネス上の目的を達成するためのツールの一つでしかないが、常に手元にあるからこそ、使い方を考えさせるようなものではダメである。

Apple製品の管理手法がわからず、シャドーMacや全く管理がなされていないMacが存在しているところも多いが、昨今Macの導入が進んでいる企業では、Macに対して様々な設定を施している。MacはiOSデバイスのMDM(モバイルデバイス管理)の仕組みと同じように管理することが可能だ。iOSデバイスが浸透している企業において、Macを導入・管理すること自体の障壁は下がっているのだ。

ただ、実際の企業のMacの設定は数多くの制限がなされていて、業務目的で使うもののはずなのに利便性が低い。実際に現場のユーザに話を聞いてみれば、「会社標準で配付されているMacは使いものにならない」という訳だ。会社標準として配付しているMacは、アカウント設定に管理者権限がなく、自由にアプリを追加したり、開発用のツールをインストールすることもできないものだったりする。社内のアプリポータルから配信されるアプリもアンチウイルスソフトなどセキュリティに関連するものばかりで、業務に役立つようなアプリは一切配信されていないケースもある。こうした企業では、アプリ開発を目的に、独自にMacを導入している例もある。現場主導でセキュリティ対策を行い、運用しているのだ。

制限だらけのMacでは、本来の社員の創造性を発揮することはできない。どれだけセキュリティ対策を行っても、あくまで使うのは人であり、安心安全に絶対はない。利用者のセキュリティに対するリテラシー向上と運用の定着化があつてこそ、セキュリティは守られるものだ。頭ごなしに機能を制限してしまうのではなく、Macに搭載されている有用な機能一つ一つに対して、想定されるリスクの判定を行い、利用者がそのリスクを理解して運用できる状態を目指すべきだ。

Macを導入する企業それぞれが独自の創造性を生み出し、社員の多様性を取り入れ、組織変革の実現や新しいビジネス価値の提供をして欲しい。そのためには、Macが持つ機能一つ一つのユースケースを考えることから始めてみよう。